

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)		*	*	*
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・中心部の商店街においても、物販に関してはあまり良い話はない。ただし、陽気のせいか人出がそれなりにあり、飲食店は多少明るさをみせている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候に恵まれて来客数が多く、生活雑貨関連、飲食店などはその好影響を受けている。そのため、物販関係全般に多少の明るさがみられている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・比較的温暖な天候が続いている。好天に恵まれて雨が少ないこともあり、商店街の通行量や来客数が増加している。特に飲食業においては、夜間の来客数が増えている。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・客単価が前年を上回っている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数以上に買上点数が伸びており、売上も順調である。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前月より3%ほど増加しており、買上点数も上向き傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・冬支度をする客が動き始めている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・寒くなり、秋冬物が動き出している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・気温の動きに振り回されて来客数の動きは不安定であるが、例年と比べると高単価な商品を購入する客が増えてきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車イベントの効果で、新車の受注が増加傾向である。また、車検需要も多く、サービス在庫も増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売となり、販売量が少しずつ伸びてきている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・天候不順により8月から続いていた夏物、秋物衣料の販売不振は、寒さの到来とともに回復がみられている。また、旅行や各種イベントの参加など、サービス業態への消費のモチベーションも向上しつつある。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・入込数は前年を上回っている。ただし、販売単価は下がっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・来客数に動きが出てきており、数か月続いていたフリー客の減少傾向が、今月はプラスに転じている。数字が大幅に悪化した前年10月との比較のため、来客数、売上共に大きく改善している。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・国内の団体旅行の動きが少し良くなってきている。また、航空機の予約状況では、平日でも満席便の日が続くところもでている。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・雨の多かった9月とは一変して雨が少なく、前年よりも順調に推移している。単価が下降気味ではあるものの、底堅い動きとなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が少ない状態が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・国体の開催により、ホテル関係は県外からの来訪者により好調であるが、商店街への恩恵は少ない。
		一般小売店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・春からの低迷が続いている。3か月前との比較では横ばいである来客数も、前年比では大幅な落ち込みとなっている。ただし、売上単価は比較的高く維持されており、店頭雰囲気もそれほど悪くはない。このまま来客数が減少していくと、ますます景気悪化に向かうのではないかと心配していたが、今月はひとまず踏みとどまった格好となっている。
	一般小売店 [カメラ]（店長）	販売量の動き	・販売量は横ばいで推移している。高額商材も少しずつ動きだし改善されてきているが、売上には変化がない。	
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数に大きな変化はないものの、1品単価、客単価共に下落が続いている。気温の低下に伴い冬物需要に期待しているが、低単価商品中心の動きとなっている。また、トレンドへの切替えを意識した客も、ショートブーツやコーディガンの購入が中心であり、単価は下がり気味である。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・気温が低下したこともあり、アパレルではアウター関連がようやく動き出しているものの、客単価は上がっていない。食品は野菜の価格高騰などもあるため、客の財布のひもは固いままである。
百貨店（買付担当）	お客様の様子	・月の前半はかなり厳しかったが、気温の低下とともに客の購買意欲も高まってきている。ただし、波があるため平均するとあまり変化はない。
スーパー（経営者）	来客数の動き	・野菜の価格高騰により単価は安定しているものの、来客数が伸びていない。
スーパー（経営者）	単価の動き	・10月の平均単価は前年比1.5%減とやや戻ってきており、来客数、買上点数共に前年並みとなっている。ただし、日曜日が前年より1日多いことによるものであり、推移としては大きな変化はない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・前年より日曜日が1回多く、来客数が増加している。そのため、前年比は良好であるが、直近2～3か月前の比較では横ばいとなっている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は、ここ数か月は一定の伸びで推移している。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・以前と比べて、買上点数が1～2点減少している。以前であれば、新規商品などはそれなりに売れていたが、今は目新しいものがあっても客はなかなか購入しなくなってきている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・国体の影響で、来客数が前年比106%となり、客単価も102%と伸びている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は下がるところまで下がっており、そのまま留まっている印象がある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の横ばい状態が続いている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の購買行動は相変わらず慎重である。値下げをするか、キャッシュバックなどのメリットが無いと、購買につながらないケースが増えてきている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暖かな気候の影響により、冬物商材の出足が鈍い。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・現在セールをしているが、スーツの販売量が思いのほか伸びていない。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が年々減少している。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比98%と若干減少しているものの、客単価の上昇により、売上は前年並みとなっている。また、季節商材の動きは鈍いが、白物家電、AV機器、パソコン関連などは前年を上回っている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・依然として新車及び中古車販売に活況がみられない。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・9月の決算セールが終わって一段落したため、やや盛り上がり欠けている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数が少ない。さらに、売れるものは安価なものが多し。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・注文家具の大口の受注が少なく、売上もあまり良くない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、客の節約志向が続いており、売上増加につながらない。そのため、毎月同ような売上の推移となっている。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・飲食店の動きに大きな変化はないが、店頭や流通の在庫が一段と引き締められている様子である。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・ようやく気温が下がってきており、若干ではあるが冬物の動きが出てきている。前年は暖冬の影響で防寒衣料はさっぱりだったので期待をしているが、まだそれほどではない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・灯油、軽油の販売量が前年を下回っている。販売価格は横ばいが続いているものの、仕入価格が上昇傾向にあるため、収益が悪くなってきている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・大きな変動要因がなく、販売量にも変化はない。

高級レストラン (支配人)	お客様の様子	・来客数は例年並みで推移しているが、客単価が前年を下回っており、売上が減少している。消費者の動きには回復傾向がみられるものの、利用金額からは慎重な動向がうかがえるため、トータルとしては変わらない。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・特に景気を左右するような要因がない。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・かつて無いほど来客数が悪かった8～9月と比較すれば、若干来客数は戻ってきているものの、まだまだ景気が良いというレベルではない。かなりの企業努力をした結果である。
一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・当店は比較的良好な状況であり、例年並みの売上となっている。ただし、周囲の店舗や業者の話を見合わせると、景気が良くなっているといった話はない。
一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・各団体の全国大会が数件あり、予想よりも街への経済効果が表れている。大人が連泊するような大会だったため、食事と宿泊を別にしている人が多く、客が飲食店やコンビニなどに流れたことが要因である。
観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・ここ数か月は来客数の前年割れが続いていたが、今月は前年を上回っている。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・繁忙期のため来客数は多いものの、例年とほぼ同様の推移であり、景気が良くなってきているとまではいえない。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・インバウンドを含めた観光客数が前年を上回っており、宿泊の動きは順調である。しかし、一般宴会については、1件ごとの人数が減少傾向にあり徐々に売上も減ってきている。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊はほぼ変わらない状況である。宴会は忘年会に向けての予約が前年並みであり、レストランにも変化はみられていない。
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・知事選挙の影響が売上に表れている。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・国内は、長雨の影響により個人旅行を中心に伸び悩みが続いている。また、海外における情勢不安も払拭できていない。このような傾向が続いているため、客はまだ様子見をしている。
タクシー運転手	販売量の動き	・今までどおりに良い状況が続いている。
タクシー運転手	来客数の動き	・夜も昼も客が異常に少ない。特に年配者がタクシーに乗らなくなっている。
通信会社(営業担当)	それ以外	・日経平均株価が上昇しているものの、一部の製造業がけん引しているためであり、景気が改善しているわけではない。また、今年初めに物価が上昇しているが、その分を補填するような収入増加には至っていない。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化はない。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・取引先を定期的に訪問しているが、状況は前月と変わらない。値下げ要求のみであり、新規商材や追加については反応を示さない。
観光名所(職員)	単価の動き	・予約数、乗船客数は例年並みであるものの、売店の売上が伸びず、客単価の低下が顕著に表れている。ものを買うという意欲が今一つ見受けられない。
競艇場(職員)	単価の動き	・来客数が3か月前とほとんど変化がないものの、1人当たりの購入額が減少しており、売上が若干減少している。
美容室(経営者)	お客様の様子	・客との会話では、連休もあまり出歩かずに旅行などの消費を抑えている様子である。ただし、髪に良い単価の高いドライヤーの販売量が伸びているなど、必要な良いものにはお金をかけるという傾向がみられている。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・受注量はあるものの、規模が小さいため客単価が低い。
百貨店(売場担当)	販売量の動き	・気温がなかなか低下しないため、防寒アイテムが苦戦している。そのため、例年のようなコートではなく、裏地なしの軽いタイプがトレンドアイテムとして好調である。このことから客単価が大きく低下し、売上に大きく影響している。

百貨店（経営者）	お客様の様子	・店頭では、衣料品や高額商材などの販売量に変化はないものの、単価が低下しており、客が生活を防衛しようとする意識がうかがえる。また、セールにおいても以前ほどの購買意欲がみられず、催事の案内に対してのレスポンスも落ちてきている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は下降傾向にある。7月の前年比105.9%の売上と比較して、10月は101.5%であり、若干の数字の低下がみられている。
スーパー（営業担当）	販売量の動き	・10月は、天候が悪く低迷した前月分をばん回しつつも、前年の実績には届いていない。また、日照不足、台風が相次いで北海道に上陸した影響による野菜の価格高騰、海水温度の影響による秋鮭、さんまの不漁や小型化による価格高騰など、消費環境は極めて悪い。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・目的買いが中心であり、買上点数が伸びていない。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・9～10月前半は、好天の影響により飲料、アイスなどが好調であった。しかし、10月後半に気温が例年並に戻った途端、客単価の低下が著しい。揚げ物、コーヒーなど、カウンター周りのプラス品の購入が減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・回復傾向にあった売上及び来客数が減少している。天候の影響もあるが、競争環境の激化によるところが大きい。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・前月からの買上点数の減少傾向は続いている。このところ、客が通販にお金を使う比率が高まっているため、店頭販売をしている一般小売店、スーパー、コンビニ、百貨店は厳しくなっている。
コンビニ（店長）	競争相手の様子	・夏に比べて来客数、売上共に落ち込んできている。さらに、競合店が多く出店したことによる影響が徐々に大きくなり、厳しい状況になりつつある。
衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・買上点数及び客単価は前年並みで推移している。しかし、来客数の減少により、売上は前年比90%となっている。
乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・軽自動車業界がかなり苦戦している。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・とにかく来客数が少なく、売上も減少している。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・天候が不安定なこともあり、飲食店への販売量が減少している。平日は特に注文数も少なく、耐え切れず閉店する店舗も出てきている。また、災害などの影響による物価の上昇が前月よりも大きく、消費者の買い控えに拍車をかけている。小売業では景気回復の兆候は一切見受けられない。
その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・今年はトレンド商品がなく秋物商材の動きが鈍い。また、気温が下がらないため冬物はまだ早く、品ぞろえに苦戦している。
観光型旅館（スタッフ）	お客様の様子	・消費単価が減少しており、宿泊プランの単価も低下傾向にある。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・企業や団体客による会議や会食の予約数が減少しており、件数、売上共に前年を下回っている。
旅行代理店（経営者）	競争相手の様子	・地震や台風の影響もあって、個人旅行の動きが非常に鈍い状態である。これは他社も同様の状況と聞いている。
旅行代理店（店長）	お客様の様子	・先行きが不透明のため、団体旅行を控える傾向にある。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・年末に向けてのキャンペーンを開始したにもかかわらず、新規加入者の減少、解約者の増加という悪い状況に陥っている。4K放送サービスの開始も、新規加入の後押しにはなっていない。
観光名所（職員）	来客数の動き	・秋の行楽シーズンであるが、来客数が例年に比べて少ない状態が続いている。
美容室（経営者）	来客数の動き	・常連客の来客数は、減少傾向にあるもののマイナス幅は現状を維持している。しかし、新規客の来客数の減少が激しく、厳しい状況となっている。
美容室（経営者）	来客数の動き	・以前は客も多かったが、今は静かである。
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・工事件数、受付件数共に、前年を下回っている。

	x	商店街（代表者）	競争相手の様子	・周囲に飲食店が増えているが、新規オープンにもかかわらず、客が集まらずに苦心している様子である。客が消費を抑えている状況のなかで店だけが増えても、1店舗当たりの消費量は増えないままである。
	x	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・政治や経済への不安、オリンピックの動向、台風被害など、社会に対する全体的な不安材料が多く、消費マインドはますます冷え込んでいる。
	x	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・店舗が繁華街にあるため、金、土曜日は非常に多くの人でにぎわう。しかし、今月はどういうわけか、平日と変わらないぐらいの人の動きである。周囲の店舗からも何かおかしいとの声が出るほど、人出が少ない。
	x	スーパー（経営者）	競争相手の様子	・ガソリン価格や米価が上昇しているなかで、客の節約志向が高まっている。また、大手の競合店を中心に、デフレに向けた価格低下が強まっている。
	x	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・クールビズが終了し衣替えとなるタイミングであるが、気温が高いままで推移している。そのため、客はコートなどを購入する意欲が少なく、10月の紳士服業界としては痛手である。また、来客数においても苦戦している。
	x	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・10～12月は、例年販売量が減少する時期である。
	x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・一時期は景気が良くなる兆しがみられたものの、最近では明るい材料が無くなったのか、むしろ悪くなっている。
	x	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。予約がある日と無い日の差が激しく、全体としてはかなり悪化している。
企業 動向 関連 (東北)		-	-	-
		一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量に増加の傾向がみられている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・年末に向けて、中小の製造業は仕事量が増えている。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比においてプラス基調が続いている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年改装で閉店していた店舗があり、その分、全体としての売上が前年を上回っている。ただし、ルートによって売上が厳しい店舗もあるため、景気が良くなっているという実感はない。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の需要は回復してきているものの、価格低迷により収益の改善が進んでいない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・景気のパロメーターの一つである、カスタム製品の開発頻度、受注頻度、開発スパンに大きな変化はなく、安定している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の設備改造工事が堅調である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・通常の受注のほか、今年度当初に出した見積物件がようやく決まってきた。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共事業の前倒し発注の影響からか、公共工事の発注は順調に推移している。
		建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・環境に大きな変化はない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の継続契約案件において入札が定例化してきているが、受注量はなんとか増加傾向にある。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・戦略的投資、拡大路線に舵を切る企業は増えていない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の資金需要はおう盛ではなく、いまだに動きがみられず、新しい資金需要も少ない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・秋の行楽シーズンに入り、観光客の動きが良くなっている印象がある。
		公認会計士	取引先の様子	・建設業関係は、売上は減少傾向にあるものの、一定の利益を確保している企業が多い。一方、小売関係は売上の減少傾向が続いており、業績も下降気味の企業が多い。
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上、利益共に横ばいで推移している。	

	その他非製造業 [飲食料品卸売業] (経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・前年比で売上が10%増加しているが、デフレ傾向にあり、通常価格ではなかなか売れない商品を低価格で販売している状況にある。このような状況は、特にブランド力のある商品の場合、消費者にとって超特売商品に感じるため、非常に良く売れているが、このような現象は景気が悪いということなのではないか。	
	その他企業 [企画業] (経営者)	取引先の様子	・得意先の住宅会社数社においては、東日本大震災後の需要があったが、ここに来て足踏み状態に入っている。	
	農林水産業 (従業者)	受注価格や販売 価格の動き	・夏の主力品種であるももの単価が、前年と比較して2～3割ほど安くなっている。	
	農林水産業 (従業者)	それ以外	・8月下旬以降の台風、長雨、低温などの天候不順により、米などの作物の生育が悪く、収穫量も例年より大きく下がっている。	
	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・売上は8月が前年比5%、9月が10%以上の減少であったが、10月は10%の増加となっている。ただし、3か月全体としては前年を下回っている。	
	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・前年と比較して販売量が4～5%減少している状況が続いている。利益率の低い商品が多く、販売量の減少により利益面でも大苦戦している。	
	出版・印刷・同 関連産業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・広告スポンサーの動きが悪い。特に飲食店は前年に比べて20%の落ち込みとなっている。	
	出版・印刷・同 関連産業 (経理 担当)	受注価格や販売 価格の動き	・仕事量が減少気味であり、同業者同士の価格競争が増えてきている。	
	窯業・土石製品 製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・被災3県、被災以外の3県共に、需要の減少がみられており、回復の兆候がみえない。	
	広告業協会 (役員)	それ以外	・マスメディア各社の上期の売上は、新聞社が前年を下回ったものの、テレビ、ラジオ局各社は前年を上回っており、オリンピック関係などが売上を支えたとみている。ただし、地元での売上は伸びていない。	
	広告代理店 (経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・売上以上に利益率が低下している。仕入業者からの情報でも、9月以降の東北地方の景気は冷え込んでいるとの話も聞く。全体的に落ち込んでいることは明確である。	
	×	繊維工業 (経営者)	取引先の様子	・天候不順の影響を引きずっており、店頭での売行きが大変悪い。
	×	その他非製造業 [飲食料品卸売業] (経営者)	受注量や販売量 の動き	・首都圏など県外向けの出荷が大きく落ち込んでいる。特に飲食店や百貨店における落ち込みが大きい。
雇用 関連 (東北)	人材派遣会社 (社員)	それ以外	・9月の実績が大きく伸展しており、売上で20%以上、総利益で30%以上となるなど上期の業績をけん引している。特に委託事業における開始前業務の波及は予想以上である。	
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・採用難が続いており決して順調ではないが、採用活動において、派遣や紹介を選択する新規企業の依頼が若干増えている印象がある。	
	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・国体関連の影響で、宿泊業や一部の飲食店が好調であり、求人数も増えている。	
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・外食産業や機械などの商社による、人材派遣会社への求人傾向は3か月前と同様である。また、営業職の募集も多く入っている。	
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求職者数自体は下げ止まり感があるものの、求人と求職者とのミスマッチが多い。	
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は継続して微増傾向にある。ただし、景気が良いために増加しているわけではなく、新卒を含めた人手不足から求人が出ている状況である。そのため、以前ほどの活況さはなくなってきている。	
	アウトソーシング 企業 (社員)	それ以外	・今のところ、前年と比較して状況に大きな変化はない。	
	職業安定所 (職員)	それ以外	・求人数の増加及び求職者数の減少により、有効求人倍率は4か月連続で上昇しているものの、景気が上向いているという実感はない。	
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・求人は活発に提出されているものの、労働力不足によるものが大半であり、景気に起因するものが少ない。	
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・9月の新規求人数は前年同月比で20%以上も増加している。また、求人倍率も前年同月と比較して0.24ポイント増加し、1.6倍を超えている。業種によっては相変わらず人手不足感がある。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、月間有効求人数共に、前年同月比は減少傾向にあるものの、減少幅は小さく、全体としてはあまり変わらない状況が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比11%強の増加、月間有効求人数は前年同月比3%台の増加と、緩やかな増加傾向を示しており、求職者数も前年同月と比較して微減となっている。このため、有効求人倍率は3か月連続して1.2倍台となっているが、臨時パートを合わせた求人全数が多い傾向は大きく変わらず、求人からみた景況感に大きな動きはない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に、2か月連続で前年比が増加している。しかし、景気が良くなってきているとまではいえない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は、引き続き1.30倍を超える高水準で推移している。しかし、求人数が大幅に増加している傾向もなく、景況感に大きな変化はみられない。
	学校就職担当者	求人数の動き	・獲得求人数は微増しているものの、前年と比較して大きな変化はない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・7月以降からの停滞感が続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・京阪からの求人は回復しつつあるが、逆に地元の求人は、減少に歯止めがかからない状況である。特に地方は一部の地域を除いて激減している。
	x	-	-